

第3回大刀洗町自分ごと化会議 議事要旨

日時	2022年1月16日（日）13時00分から16時00分
場所	大刀洗町役場3階大会議室
会議参加者	出席者数13名（欠席者数11名）
大刀洗町	町長、副町長、教育長 事務局：総務課 説明担当課：住民課
コーディネーター	荒井英明（神奈川県工業内陸団地事務局長、構想日本特別研究員）
ナビゲーター	廣木俊二（ふれあいセンター センター長）
ナビゲーター補助	櫛田豊久（アミタ 経営戦略補佐 KOUプロジェクトマネージャー） 高田大輔（アミタ 大刀洗現地事務所常駐員）

概要

1. 開会
2. 前回の振り返りと会議進行の説明
3. 全体説明
 - ・ごみ減量の社会実験説明（住民課）
 - ・ふれあいセンターでの社会実験の事例紹介（ナビゲーター：センター長 廣木氏）
4. 全体会
 - ・協議のポイント提示
 - ・グループワークの進め方
5. グループ協議
 - ・テーマにもとづく話し合い
 - ・グループ協議結果の全体共有
6. 全体会
 - ・本日の協議結果の振り返りと総括
 - ・改善提案シート、アンケート記入
7. 事務連絡
8. 閉会

＜今後のスケジュール＞

第4回会議：令和4年2月19日（土）13時00分から16時00分

会議内容

1. 開会

資料確認、コーディネーター紹介（総務課 今林）

- コーディネーターは前回に引き続き荒井氏、ナビゲーターは本郷ふれあいセンター長の廣木氏。
- ナビゲーターからは、本郷でのごみ減量に関する社会実験の内容を話題提供いただく。

2. 前回の振り返りと会議進行の説明

前回の振り返りと会議進行の説明（コーディネーター 荒井）

- 前回よりも踏み込んだ議論をしたい。
- 「3R+C」という考え方について話をしてきた。「3R」と「+C」両方が相乗効果で、
 - ごみ問題を地域のコミュニティーを使って解決できるのではないか。
 - 3Rの活動をすることで、地域のコミュニティーを活性化できるのではないか。という話をしてきた。
- まずは話題提供として、町住民課からごみの減量化等社会実験の事業概要と期待する効果の説明。次に廣木氏からごみ減量等の社会実験を受けた理由、社会実験を通して気づいたことなどの事例紹介をしていただく。
- 終了次第、グループワークに移り、グループごとの意見交換を行った後に、全体での総括をする。

3. 全体説明

話題提供「大刀洗町ごみの減量化等社会実験」（住民課 入江）

- 経緯は次のとおり。
 - 第1回自分ごと化会議で出た意見を踏まえて社会実験を始めた。
(資源(ペットボトルなど)をいつでも出せるように、月1回でなく常設の資源回収ができる場がほしい。)
 - 第2回でも「地域にごみや情報の集まる場がほしい」という意見があった。
- 「3R」と「+C」の両方の効果を高めるために考えていたところ、アミタの事例を見つけた。第2回自分ごと化会議でも、アミタの櫛田氏を招き、ナビゲーターとして話題提供を依頼した。
- その後、アミタより「MEGURU STATION」の提案を受け、ごみ問題を起点としたごみ減量と地域コミュニティーの活性化につながるステーションの設置を検討するにあたり、まずは本格導入前に、モニターするために、MEGURU STATIONの試験設置を決めた。
- 設置対象地区は、本郷地域づくり委員会を中心に「段ボールコンポスト」等ごみの減量の取組みを推進していることから本郷校区を候補とし、投げかけたところ、賛同いただけたため試験設置に至った。
- 事業概要は次のとおり。
 - 本郷のふれあいセンターに、気軽にごみ出しができ、生ごみの循環化を体験いただける施設「M

EGURU STATION」を設置した。

- 資源回収ステーションと、生ごみを液肥等に資源化する装置が置いてある。
- 期間は令和4年1月7日（金）～3月31日（木）まで。
- 期待する効果は「ごみ排出量の削減と資源化の推進」。いつでも気軽に資源ごみ等が出せる環境ができる、そこに人が集まることで地域コミュニティーの活性化を期待している。

話題提供「ふれあいセンターでの社会実験の事例紹介」（ナビゲーター 廣木氏）

- 本郷地区が協力していることは大きく以下2点。
 - MEGURU STATIONの運営をボランティア2名でサポート。
 - 人の集まる場所をつくる。
- ごみ量が増加して、ごみ処理施設の処理量が問題になっている。町長より協力依頼を受け、受け入れた。
- MEGURU STATIONでは燃えるごみの1／3を占める生ごみに焦点をあてた装置があり、バイオマス処理し、液肥等に分解処理することができる。
- これまで燃えるごみに出していたものを循環処理することができ、また、人の集まる場にもなる。
- ある方からは「家の前にごみ集積所があるため、ふれあいセンターまで行くのは遠い」という意見もあったが、生ごみ処理の意義や集まれる場となることを説明し、納得いただけた。
- 薪ストーブも設置している。自然と火の回りに人が集まり、会話が生まれる場になっている。
- モニター対象は150世帯。設置から1週間で、すでに80世帯が来ている。

4. 全体会

話題提供の振り返りと議論のポイント提示（コーディネーター 荒井）

- 自分ごと化会議でのごみの減量に関する協議を進めながら、そこで出た意見も踏まえつつ、並行して社会実験が行われている。非常に前向きでスピード感のある取り組みだ。住民から意見を受けた行政が、その対応に動く例は他の自治体もあるが、自治体が動くのには大体1年かかることが多い。その年度内に取り組みを始める例は稀だ。
- 今日は、今の話を踏まえて今回の社会実験がより良いものにできるような案、社会実験の内容とは違うが、「こうすれば“3R+C”につながる」という案を見せていただきたい。
- 考え方は、役場や周りの人々に「もっとこうしてほしい」ではなく、ぜひ「自分になるができるか」を主軸に考え、意見を出し合っていただきたい。
- 前回の会議の中で「ごみの地産地消」というキーワードが出ていた。「大刀洗町でごみを処理できるようにしよう」ではない。「出てくるごみを“ごみ”にせず、地域でもう一度使おう」という意見だ。
- 「ごみを減らす（3Rの）ために地域のコミュニティーを活用しよう（+C）」という話が3R+Cだが、「+C」を活性化するためには、ごみ以外のこととも役立てることができる。
例えば「子育て世代の情報交換・交流の場があれば、もっとコミュニティーを活性化できる」という考え方もあれば発言してほしい。MEGURU STATIONの薪ストーブのお話も、一つの例であ

ると思う。

- これからグループワークに入る。町長、副町長、教育長と、オブザーバーでお越しいただいている東邦大学の竹内氏、平田氏、構想日本の伊藤も、皆さんと一緒にグループに参加しながら協議を進める。

5. グループ協議

(【グループに分かれ3つのテーマを協議。各テーマ協議後に全体へ発表】という流れで実施)

テーマ①「私と地域にできる“3R”とは？」

Aグループ

- それぞれの立場によって、見る観点が違う。
- 3Rを進める上で、どれだけの量を減らすことができるのか、見える化することが重要だ。効果がわかると、意欲にもつながる。

Bグループ

- 本郷の事例紹介の中で「遠いところは行きづらい」という意見があったと聞いた。もっと近いところにあれば気軽に集まれる。
- わざわざ行かず、必ず行く場所。例えば保育所や学童にMEGURU STATIONがあれば、もっと気軽にになる。
親が送り迎えで行きやすく、集まりやすい。子どもたちもごみについて学ぶ機会にもなる。
- 生ごみの水切りに、雑がみを活用できる。両方とも燃えるごみに出していたが、こうした小さな活用を広げて行けば、ごみの量を減らすことができる。
- 数人で暮らしているとペットボトルごみが大量になる。すべて一人で分別するのは大変だが、家族で協力しあうことで、家族のだれかの負担とならないよう、資源に分別できる。
- 他所でいらなくなつたものでも、自分にとっては必要なものになつたりするし、その逆もある。赤ちゃん用品・ベッドなどがいい例。広く声をかければ「誰かの不要な物」を「必要な物」にできる。
MEGURU STATIONのように集まれる場所を活用し、交換し合うこともできると思う。

Cグループ

- 安いものだからとすぐに使い捨てず、長く使うことが大切だ。
- 家庭で多く出るごみは何か聞いてみたら、ペットボトルだという話になった。ペットボトルのごみを減らす取り組みができれば効果は大きい。また、ペットボトル専用の集積をするなど、分別意欲を高めることができれば資源化できる量が増えると思う。
- コロナ禍で食品の持ち帰り購入の機会が増えているので、それにあわせて容器のプラスチックが増えている。何か再利用できる方法を考えたい。
- 不要になった子どものおもちゃなど、ゆずり合える場所があると良い。
- 少し修理すれば使える家電製品などが、今は調子が悪くなつたら捨てられている。修理できるような場所をつくれると良い。
- 食品ロスが生まれないような料理教室を開き、多くの住民が参加すれば、食品のごみを減らすことができる。

D グループ

- 「ある人にとってはごみでも、ある人にとっては宝」。使わなくなった家電などは、「引き取ってくれれば無料でお渡し」など、ジモティー等活用して、必要な人の手に渡るようにできる。
- ジモティーを例に出したが、こうしたフリマサービスに近いやり取りができる場の、大刀洗町版がつくれると良い。
- 段ボールから子ども用のおもちゃをつくる、廃材から家具をつくるなども有効だ。
- 出すごみを減らすためには、本当に必要なものを買うようにし、不要なものは買わない。こうした意識を自分が持ち、広げて行けば町全体のごみを減らせるのだと思う。

コーディネーターによるテーマ①の振り返り

- ごみは必ず出る。「必ず出るものと、必ず行く場所で一緒に集める」という意見があった。集積所に出しにいくのではなく、行く先に集めるというのは良い発想だ。
保育所という例が出たが、学校や役場なども「必ず行く場所」かも知れない。
- いくつかのグループで「私にとってはごみでも、他の人にとっては宝かも知れない」という意見が出ていた。価値観や考え方を変えるという発想であり、3Rやごみの地産地消のポイントとなること。
- 「家族で」や「町全体で」という発言があった。家族もコミュニティー、100世帯が集まてもコミュニティーであり、町全体もコミュニティーだ。例えば「私にとってはごみでも、他の人にとっては宝かも知れない」という考えは、家族や地域で取り組むよりも、町全体で何か一つの取り組みにすると、より効果ができるかも知れない。取り組む内容によってコミュニティーの単位を変えて考えることも、良い視点だと思う。

テーマ② 「“ごみの地産地消”って何だろう？」

A グループ

- リサイクルマーケットを開く。不用品を持ち寄り、必要な人がもらっていけるようにする。また、修理場もつくり、修理すれば使えるものは、そこに集まった中で修理できる人が協力できるようにする。
- 古本を自由に持ってきて、自由に持つて行っていい「フリー図書館」をつくる。
- 不要になったものを、知り合いでなく、町全体にお知らせして、欲しい人の目に留まるような仕組み・情報交換の方法があると良い。

B グループ

- 小学校に生ごみ処理機を置き、小学校の野菜づくりなどの肥料に使う。
- 不要になった保育園グッズを持ち寄り、これから保育園に入る子どもに使ってもらう。そこで集まつたり削減できた費用は、地域の子ども会などで利用していく。
- 食べ物は旬の食材を意識して使うことで、食品ロスを減らせるのではないか。

C グループ

- 学校の協力を得ながら、資源回収に子どもたちと一緒に取り組む。子どもにリサイクルやごみに対する意識を持つもらうことにつながる。

- 生ごみからできた液肥を使って野菜をつくり、できた野菜を家庭で消費することで、地産地消と言える。
- 販売用の農産物には、販売する上での規格上、液肥を利用することは難しい。しかし、販売目的でない、子どもの野菜づくり体験教育などで活用することはできる。
- ごみを減らしていくためには、子どものうちからの意識づけが重要だ。

D グループ

- 地域の方で、自転車などの家具・生活用品を修理ができる人がいれば、ごみが減らせる。
- 子どもの学校の体操服やランドセルなど、時期が来たら使わなくなってしまうものがある。きれいなまま捨てるのはもったいないので、集会所に持ち寄って別の家庭で役立ててもらうことができる。

コーディネーターによるテーマ②の振り返り

- テーマ①とテーマ②の両方で、子どもたちと一緒に、子どもたちの目に映る場所で取り組むことで、将来の3R+Cにつなげようという意見があった。直接的に、すぐにごみ減量の効果に結び付くわけではなくとも重要なことだと、皆さんお考えになっている。
- 首都圏では、かつては給食の生ごみを養豚業者が無料で回収していた。今は餌が発達し、このようなことはなくなったので、処理費用が発生している。
学校でそのまま処理できるようになれば、子どもたちの意識づくりにもつながるし、ごみ処理費用の削減にもつながる。
- かつては、提案にあったリサイクルマーケットやフリー図書館に近いもので、無料で集めたものを売り、子ども会などの運営資金にする場があった。実現できない話ではないと思うし、今の時代でやれば、より高額でより良いものが揃うようになると思う。
実行するにあたっては、テーマ①で話題に上がった「コミュニティの単位」が重要になるかも知れない。どういうエリアをターゲットにするかで効果が変わると考えられる。
- 地域の高齢者が集まり、持ち寄られたおもちゃを再生する「おもちゃ工房」というものを、別のまちで見かけたことがある。子どものおもちゃに関わらず、物がだめになったらすぐ捨てるのではなく、「大刀洗は、直して使うまちだ」という価値観を育てていくことは大事なことだと思う。
- リサイクルマーケットやフリー図書館など、行政主導の話ではなく、住民主導で立ち上げることができれば、新たな大刀洗町の色ができ、価値観を育てていくことができると思う。

テーマ③ 「“+C”のためにできることは何だろう？」

A グループ

- 皆さんをコミュニティに呼び込むよりも、皆さんにコミュニティ側が近づくことが重要だ。
- 集まる場となるものは、場所や時間を皆さんに近づける。今のMEGURU STATIONのように、8:30～17:00だと、仕事に出ている人は集まらない。17:00以降に時間をずらすなど、参加できる時間にすることで、コミュニティに参加する人を増やす。

B グループ

- デザイン教室をつくり、要らなくなったものから工作するサークル活動を通して、リサイクルに関わる人を増やす。

- 近所で集まり、ごみ回収に取り組むなど、小さな交流の場を使って広げて行く。

C グループ

- ごみ出しを「ついで」にできる、気軽に行ける場所になるとコミュニティにつながる。体操教室、料理教室などの「ついで」にごみを集められれば人が集まる。
- 使わないものを持ち寄り、気軽に見に行ける場所が良い。
- コミュニティ活性化の場では、新たな住民や外国人に、大刀洗町がどんなまちで、どんな人たちが住んでいるのかを知ってもらえるようにしたい。子どもを連れてきて遊ばせられるような場所にできれば、「+C」が進んでいくと思う。

D グループ

- 「集まる必要性がわからない」という意見があった。集まることに対するメリットを感じられるようになる必要がある。
- 最終的には町全体で取り組んでいくことを目標に、まずは小さい単位で取り組みを始めて、次第に広げていけば良いと思う。

コーディネーターによるテーマ③の振り返り

- コミュニティを人に近づけるために、どこでやるか・いつやるかというハード観点の意見、サークルや料理教室など、中身に何をするかというソフト観点の両面の意見があった。
- 住民がコミュニティに参加し、活動することのインセンティブ・メリットを出した方が、参加する方が集まるだろう。
- 小さく始めて、大きく町全体へ広げようという意見もあった。
ごみを出すためのコミュニティ活動をするのではなく、生活の中で何かをする「ついでに」という話と重なる部分がある。「ついで」でできることで、一人ひとりが活動しやすくなる。その結果コミュニティ活動が活性化したり、活動する方が増えることで、大きなごみ減量効果につなげていけるのだろう。

6. 全体会

全体での情報共有（コーディネーター 荒井）

- 新聞記事。前回、西日本新聞社の記者に会場へお越しくださり、中山町長へインタビューしていただいた結果、自分ごと化会議のことを紹介する記事が、1月3日の新聞に掲載された。ぜひお目通しいただきたい。
- 今日の会議の中で、小中学校や子供たちとの取り組みについて、いくつか意見が出ていた。ぜひ教育長より、小学校で行っている取り組み事例をご紹介いただきたい。

小学校での取り組みの紹介（教育長 柴田）

- 学校での資源回収は、年に数回行っている。
- 生ごみ処理は全小中学校に配備済みで、給食の残菜を処理している。
- 今年度、牛乳パックのリサイクルも始めた。
- こうした活動を通して子どもたちの意識を育てていき、今後は、ごみ問題に関する他のことも学んで

もらいたいと思っている。

次回に向けて（コーディネーター 荒井）

- 次回は、「MEGURU STATIONをどう活用できるか？」
「実験の効果をどう高めるか？どんな機能を持たせれば高められるか？」
「本格的に導入することになったとき、どのようなことが期待でき、またどんな将来につなげていけるのか？」
など、より深く踏み込んだ協議をしたい。
- 委員の皆さんには、次回までの間に、ぜひふれあいセンターのMEGURU STATIONへ見学に行っていただきたい。

7. 事務連絡

最終回でのアート企画の協力依頼（構想日本 石川）

- 次回が最終回となる。最終回が終わったら皆さんの意見がまとまった答申書を、町長へ提出し、自分ごと化会議は終了となる。それだけではい終わりではさみしいので、委員の皆さん参加型の「自分たちの手でみらいをつくる」をコンセプトにしたアート企画をやりたいと考えている。
少し前に最終回を迎えた東海村では、同じコンセプトのもと、参加した委員の皆さんと事務局の手形を集めてアートをつくり、みんなで記念写真を撮影した。また、答申書の裏表紙にそのアートを載せている。大刀洗町でも、みんなの記念になるような企画をしたい。企画を練って最終回に持ってくるので、ぜひご協力をお願いします。

住民課からのご案内（住民課 山本）

- 「おいしく食べて放置竹林解消」についての資料を配布した。講演放置竹林の対策をしている方の講演の予定があるので、希望する方は申し込みをお願いします。
- 住民課では、マイナンバーカードの取得も推進している。こちらも資料もお配りしている。ご希望の方は住民課へご連絡ください。

社会実験「MEGURU STATION」に関する連絡（住民課 入江）

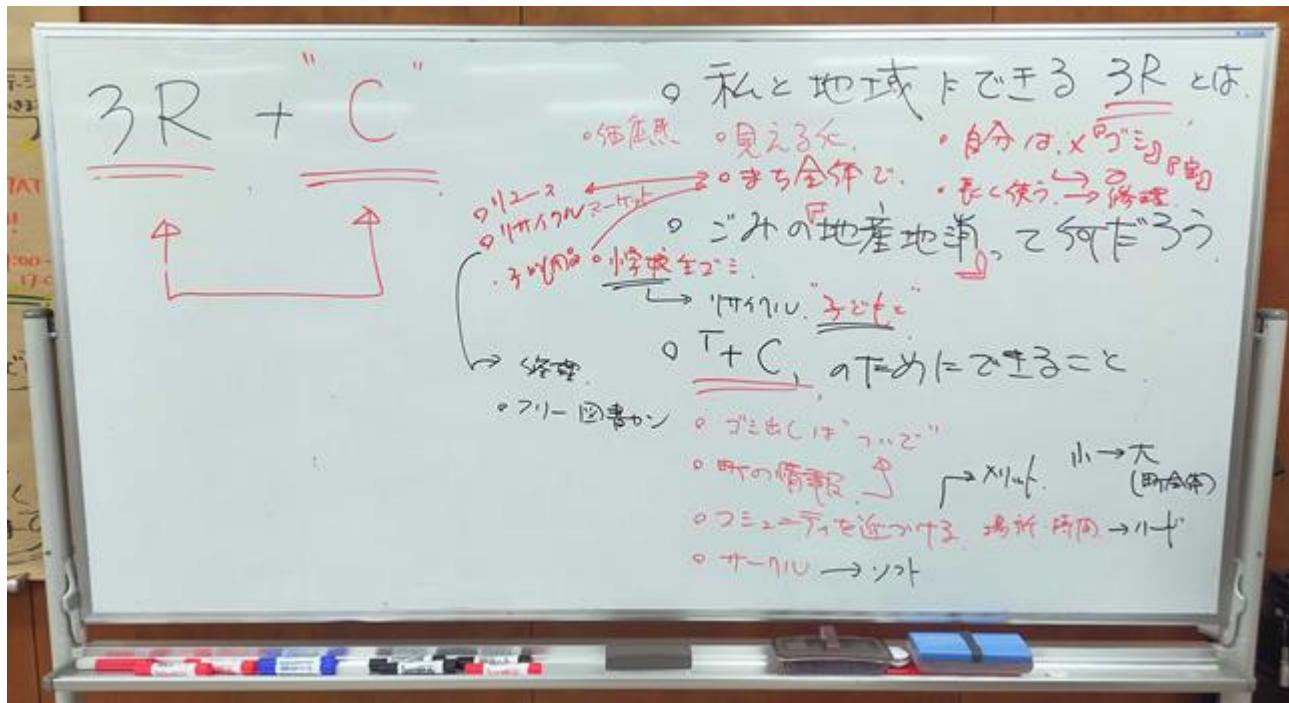
- ぜひ本郷校区のMEGURU STATIONの見学をお願いします。
水曜・日曜以外の週5日間、8：30～17：00に見学可能。現地で詳しい説明を伺いたい方は、現地に常駐しているアミタの高田氏へお声がけください。

8. 閉会

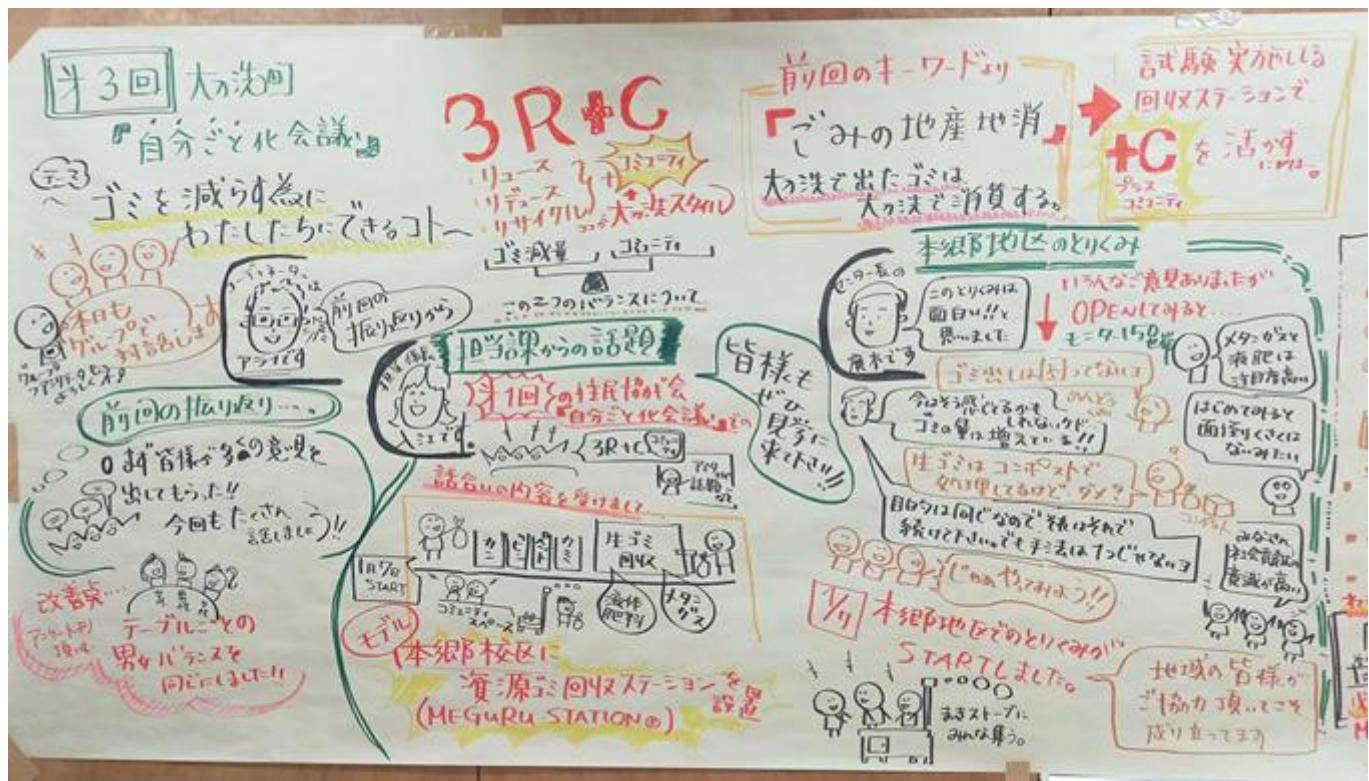
第4回会議は、令和4年2月19日（土）13：00～16：00に開催予定。

ホワイトボード・グラフィックレコード写真

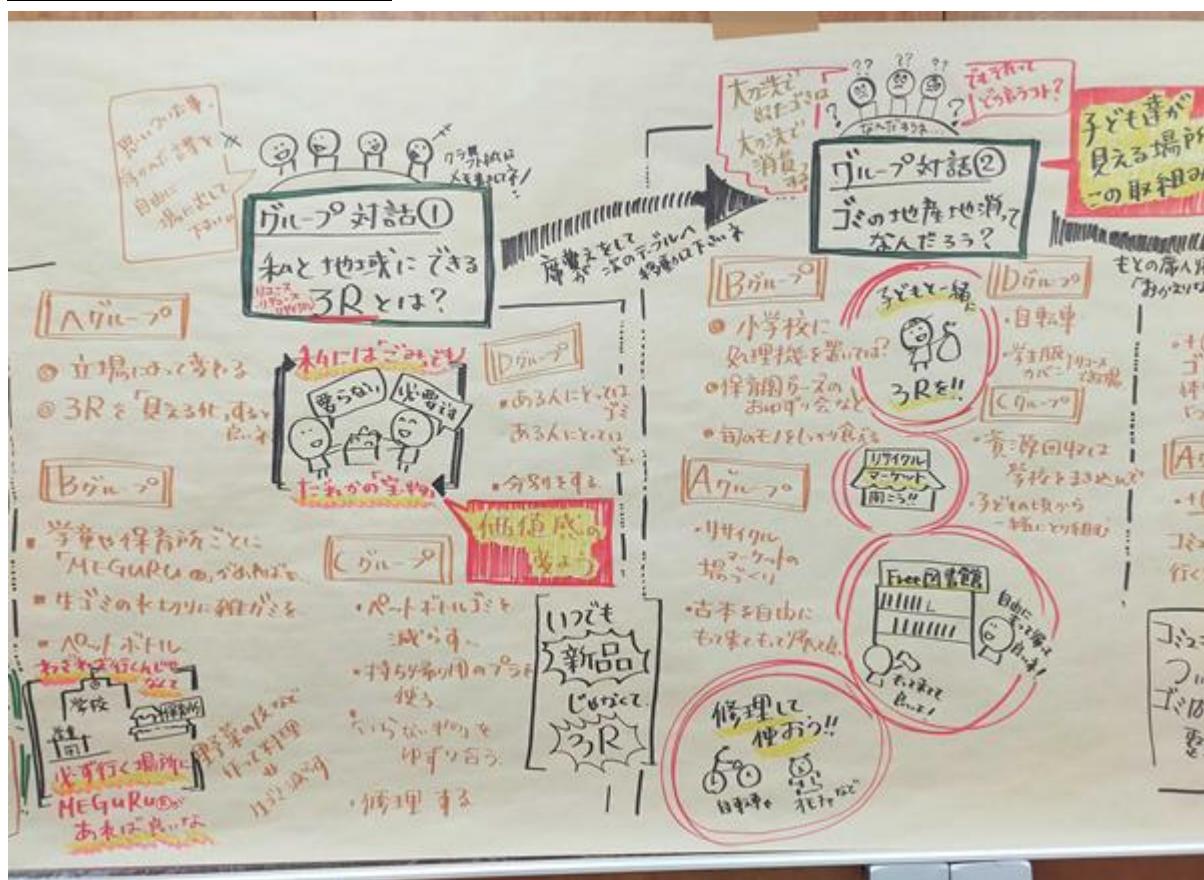
ホワイトボード



グラフィックレコード1枚目



グラフィックレコード2枚目



グラフィックレコード3枚目

